



富士フィルムホールディングス株式会社 ソーシャルボンド 債券発行後定期レビュー セカンド・パーティ・オピニオン



## セカンド・パーティ・オピニオン

## SECOND PARTY OPINION

富士フィルムホールディングス株式会社

ソーシャルボンド債券発行後 定期レビュー（第1回）

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2023年4月20日

Ref. Nr.: PRJN-340459-2022-ASTJPN-01

## 目次

I. スコープと目的	3
II. プロジェクト概要	4
III. 富士フイルムホールディングスの責任と DNV の責任	5
IV. DNV 意見の基礎	5
V. 評価作業	6
VI. 観察結果と DNV の意見	7
スケジュール-1 ソーシャルボンド プロジェクトリスト	10
スケジュール-2 ソーシャルボンド適格性評価手順	10
SBP-1 調達資金の使途	11
SBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	12
SBP-3 調達資金の管理	13
SBP-4 レポーティング	14

## 改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2023年4月20日	初版発行

**Disclaimer**

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

**Statement of Competence and Independence**

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct<sup>1</sup> during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

<sup>1</sup> DNV Code of Conduct is available from DNV website ([www.DNV.com](http://www.DNV.com))

## I. スコープと目的

富士フイルムホールディングス株式会社（以下、富士フイルムホールディングス）は、DNV に 2022 年 4 月に発行した「ソーシャルボンド」の債券発行後定期レビューの実施を委託しています。DNV における債券発行後定期レビューの目的は、富士フイルムホールディングスが、後述する基準であるソーシャルボンド原則(以下、SBP)及びソーシャルボンドガイドライン(以下、SBGLs)及び他に関連する基準もしくはガイドライン(下表参照)に合致していることを確認するための評価を実施し、このソーシャルボンドの適格性についてセカンド・パーティー・オピニオンを提供することです。

富士フイルムホールディングスは 2022 年 4 月 20 日にソーシャルボンドの債券を発行しました。この債券の発行額は 1,200 億円です。DNV は、SBP 及び SBGLs に基き、ソーシャルボンド・フレームワーク債券発行前セカンドパーティーオピニオン（2022 年 3 月 23 日発行）に続き定期レビュー(第 1 回)を実施しました。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティー・オピニオンの提供に際し、富士フイルムホールディングスとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、ソーシャルボンドの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

### 適用又は参照される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル*1*2
1.	ソーシャルボンド原則	国際資本市場協会、2021	適用
2.	ソーシャルボンドガイドライン	金融庁、2021	適用

\*1 適用：各原則やガイドライン共通の 4 つの核となる要素全てに対する適格性を評価した

\*2 参照：今回のソーシャルボンドのプロジェクトや実行計画に基づき、関連する内容を部分的に考慮した

## II. プロジェクト概要

富士フィルムホールディングス株式会社は、富士フィルムグループの「Sustainable Value Plan 2030」の下、アクションプランの中期経営計画と位置付けられる「VISION2023」で成長を加速させる「ヘルスケア」セグメントにおいて、バイオ医薬品の開発・製造を受託する事業「バイオ CDMO 事業」の展開を通じたアンメットメディカルニーズへの対応や医療サービスへのアクセス向上などの社会課題解決に向け、高品質・安定供給の要素であるバイオ CDMO 事業における各拠点の製造能力増強に取り組んでいます。今回、富士フィルムホールディングスは、適格性が確認されたバイオ CDMO 事業に関わる 6 つの代表プロジェクトの内、現在、進行中の 2 つのプロジェクトに資金充当しました。

プロジェクト	プロジェクトの概要
ソーシャル分類	必要不可欠なサービスへのアクセス（健康、健康管理） (SDGs への貢献 目標 3, 17 に関連)
対象となる人々	バイオ医薬品の利用者
主要なプロジェクト活動	バイオ CDMO 事業における、製造拠点の新設、M&A、生産能力増強に係る設備投資、高効率・高生産性技術の開発等 (これに限らず、関連する活動を含む)
代表プロジェクト及び充当時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 【M&amp;A】デンマーク工場買収 充当時期：2019年8月（完了）</li> <li>② 【設備投資】デンマーク工場能力増強 充当時期：2021年～2023年（予定）</li> <li>③ 【設備投資】米国ノースカロライナ州に製造設備新設 充当時期：2021年～2025年（予定）</li> <li>④ 【設備投資】米国、英国生産拠点の能力増強 充当時期：2021年～2023年（予定）</li> <li>⑤ 【M&amp;A】米国細胞治療薬製造拠点の買収 充当時期：2022年4月（完了）</li> </ul> <div style="float: right; margin-top: 10px;"> <p>資金充当対象 定期レビュー対象</p> </div>

富士フィルムホールディングスは、ソーシャルボンドの対象プロジェクトとして、2019年8月に実施した M&A 「Biogen 社からデンマーク工場（FDBD : FUJIFILM Diosynth Biotechnologies Denmark ApS）の買収」、2021年から開始した生産能力増強に係る設備投資である「デンマーク工場（FDBD）生産能力増強（20KL 培養槽を+6 基増設（合計 12 基）他）」を対象プロジェクトして選定、合計 1,200 億円を資金充当しました。

デンマーク工場は、生産能力増強を経て延床面積 4 万㎡→6 万㎡へ増床。総タンク容量 12 万 L→24 万 L へ拡充される予定です。



【写真】デンマーク拠点の外観



【写真】デンマーク拠点内の培養タンク（既存）

### Ⅲ. 富士フイルムホールディングスの責任と DNV の責任

富士フイルムホールディングスは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて富士フイルムホールディングス及び充当されたソーシャルボンドの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、富士フイルムホールディングスから提供された情報、及び事実に基づいてしています。

DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、富士フイルムホールディングスの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

### Ⅳ. DNV 意見の基礎

DNV は、発行体にとってより柔軟なソーシャルボンド適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、SBP 及び SBGLs の要求事項を考慮した富士フイルムホールディングスソーシャルボンド評価手順を作成しました。スケジュール-2、3 を参照してください。この手順は SBP 及び SBGLs に基づくソーシャルボンドに適用可能です。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、ソーシャルボンドが「社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのソーシャルボンドに対する基準は、以下の 4 つの要素にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、ソーシャルボンドの発行体は、ソーシャルボンドにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な社会便益を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、ソーシャルボンドの発行体が、ソーシャルボンド調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、ソーシャルボンドが発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、債券への投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

## V. 評価作業

DNV の評価作業は、発行体によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

### i. ソーシャルボンド発行前アセスメント（\*この報告書には含まれません）

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、ソーシャルボンドへの適用を目的とした発行体特有の評価手順の作成。
- この債券に関して発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- 発行体との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

### ii. ソーシャルボンド発行後アセスメント \*今回報告内容

- ソーシャルボンド発行後に、発行体により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価
- 発行体の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査および検査（必要な場合）
- 発行後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー（スケジュール-1 に記載された内容の更新）
- 発行後検証での観察結果の文書作成

## VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

### (1) 調達資金の用途

DNV は、富士フィルムホールディングスがソーシャルボンドにより調達した資金全額が SBP、SBGLs で示される以下の合致したソーシャルプロジェクトとして以下の 2 つのプロジェクトを選定し、資金充当されたことを確認しました。

また、選定された 2 つのプロジェクトは以下の二次的な社会的便益を有すると共に、2 つの SDGs（「3.すべての人に健康と福祉を」と「17.パートナーシップで目標を達成しよう」）にも貢献する取組みであることを確認しました。

<ソーシャルプロジェクトカテゴリ>

#### ■ 必要不可欠なサービスへのアクセス（健康、健康管理）

適格クライテリア：バイオ CDMO 事業における、製造拠点の新設、M&A、生産能力増強に係る設備投資、高効率・高生産性技術の開発等

適格クライテリア	適格プロジェクト		充当期（実績）	充当額*1
バイオ CDMO 事業における M&A	デンマーク工場買収	Biogen 社からのデンマーク工場買収	2019 年 8 月（完了）	\$ 890M (全額リファイナンス)
バイオ CDMO 事業における生産能力増強に係る設備投資	デンマーク工場能力増強	デンマーク工場の生産能力増強（20KL 培養槽を+6 基増設（合計 12 基）他）	2021 年 4 月-12 月	約 200 億円 (全額リファイナンス)
			合計	1,200 億円 (全額リファイナンス)

\*1：充当額は実際に充当した通貨単位で記載していますが、DNV はアセスメントを通じ、合計が 1,200 億円相当であることを確認しました

### (2) プロジェクトの評価及び選定のプロセス

DNV は、レビューを通じて富士フィルムホールディングス ソーシャルボンドの資金用途となるプロジェクトが、「Sustainable Value Plan 2030」/「重点課題（マテリアリティ）」に基づき選定され、経理部がコーポレートコミュニケーション部、ESG 推進部及び関連する事業部門と協議を行い、適格クライテリアを満たすプロジェクトを選定したことを確認しました。また、DNV は、富士フィルムホールディングスがソーシャルボンドの発行に際し、選定された適格プロジェクトについて、経理管掌役員が最終決定し、その結果については、取締役会に報告されたことを確認しました。

DNV は、富士フィルムホールディングスが、当該プロジェクトの選定に当たり「適用又は参照される基準」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響を評価、検討し、環境・社会的リスクを事前に確認していることを確認しました。

DNV は、富士フィルムグループがグループ全体のコンプライアンスとリスクマネジメントを監督する責任を有する取締役会において社長を委員長とする ESG 委員会からの報告に対し、必要に応じて指示・助言を行い、そのプロセスの有効性を保持していることを確認しました。

### (3) 調達資金の管理

DNV は、富士フイルムホールディングスが債券発行から 1 年間、どのように資金を追跡管理したか確認しました。

富士フイルムホールディングスは、2019 年 8 月の Biogen 社からのデンマーク工場の買収に対してソーシャルボンドで調達した資金の内、約\$890M相当の円貨をリファイナンスとして充当していました。

また、2021 年 4 月～2021 年 12 月の FDBD 能力増強としての支出は“バイオ CDMO 事業における生産能力増強に係る設備投資(これに限らず、関連する活動を含む)”であり、主な支出の一例として、建屋新設、培養タンクの設計・製作・据付費用が含まれます。富士フイルムホールディングスは、調達資金のうち、約 200 億円をこれらのリファイナンスとして充当していました。

DNV は、富士フイルムホールディングスが、上記 2 つのプロジェクトにソーシャルボンドで調達した 1,200 億円の資金を全額充当し、未充当は生じていないことを確認しました。

また、充当額は実際に充当した通貨単位で記載していますが、DNV はアセスメントを通じ、合計が 1,200 億円相当であることを確認しました。

### (4) レポーティング

DNV は、SBP、SBGLs で要求されるソーシャルボンド特定の情報に関して、富士フイルムホールディングスのウェブサイトにて年次報告する予定であることを確認しました。

年次報告は、調達資金がプロジェクトに充当され生産設備が稼働するまでの間、下記に記載する資金充当状況及び社会的便益を報告する予定です。

主要な報告項目は以下を予定しています。

#### <資金充当状況>

- 充当額・未充当額
- リファイナンスに充当額及び割合

#### <社会的便益>

- プロジェクトの概要（所在地、規模など）
- バイオ CDMO 事業が有する生産能力（L）

## 評価結果

DNV は、富士フイルムホールディングスから提供された情報と実施された業務に基づき、富士フイルムホールディングスがソーシャルボンド適格性評価手順の要求事項を満たしており、SBP、SBGLs の「社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」というソーシャルボンドの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社.

2023 年 4 月 20 日



**マーク ロビンソン**

サステナビリティサービス マネージャー

DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



**前田 直樹**

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



**金留 正人**

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



**橋本 寿士**

アセスメントリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

## About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

## Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

## スケジュール-1 ソーシャルボンド プロジェクトリスト

表中のプロジェクトにおいて、①～②は、ソーシャルボンド債券発行後（2023年3月現在）、既に充当されたプロジェクトです。  
また、③～⑤の代表プロジェクトはソーシャルボンド発行後（2023年3月現在）で適格性を評価済みの複数のプロジェクト候補です。

ソーシャルプロジェクト	ソーシャルプロジェクトカテゴリー	受益者	代表プロジェクトの概要
バイオCDMO事業における、製造拠点の新設、M&A、生産能力増強に係る設備投資、高効率・高生産性技術の開発等	<p>必要不可欠なサービスへのアクセス (健康、健康管理)</p> <p>サブカテゴリ (二次的・追加的な便益)：</p> <p>高品質なバイオ医薬品の安定供給を通じたアンメットメディカルニーズへの対応・医療サービスへのアクセス向上</p>	バイオ医薬品の利用者	<p>① 【M&amp;A】 デンマーク工場買収 充当時期：2019年8月（完了） <a href="https://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr_1451.html">https://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr_1451.html</a></p> <p>② 【設備投資】 デンマーク工場能力増強 充当時期：2021年～2023年（予定） <a href="https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/5049">https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/5049</a></p> <p>③ 【設備投資】 米国ノースカロライナ州に製造設備新設 充当時期：2021年～2025年（予定） <a href="https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/5874">https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/5874</a></p> <p>④ 【設備投資】 米国、英国生産拠点の能力増強 充当時期：2021年～2023年（予定） <a href="https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/6719">https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/6719</a></p> <p>⑤ 【M&amp;A】 米国細胞治療薬製造拠点の買収 充当時期：2022年4月（完了） <a href="https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/7501">https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/7501</a></p> <p>上記、③～④の2021年の支出については、ルックバック適用予定</p>

\*赤枠が充当されたプロジェクトであり、定期レビューの対象としています。

## スケジュール-2 ソーシャルボンド適格性評価手順

下記のチェックリスト(SBP-1～SBP-4)は、ソーシャルボンド原則2021を基に、富士フイルムホールディングス ソーシャルボンド・フレームワーク適格性評価用に作成された DNV 手順です。評価作業における「確認した文書」は、発行体の内部文書等が含まれ発行体から DNV に対して適格性判断の証拠として提供されています。

## SBP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	ボンドの種類	ソーシャルボンドの種類は SBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)ソーシャルボンド ・ソーシャルレベニューボンド ・ソーシャルプロジェクトボンド ・その他	確認した文書類： ・ソーシャルボンド・フレームワーク ・ソーシャルボンド 1 年後定期レビュー資料 関係者へのインタビュー	評価作業を通じ富士フィルムホールディングスのソーシャルボンドは以下のカテゴリに分類されることを確認した。  (標準的) ソーシャルボンド
1b	ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャルボンドにおいて肝要なのは、その調達資金がソーシャルプロジェクトのために使われることであり、そのことは、ソーシャルボンド発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： ・ソーシャルボンド・フレームワーク ・ソーシャルボンド 1 年後定期レビュー資料	資金調達の全額が、以下のプロジェクトに充当したことを確認した。 「必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)」 「高品質なバイオ医薬品の安定供給を通じたアンメットメディカルニーズの充足・医療サービスへのアクセス向上」
1c	社会面での便益	調達資金使途先となる全てのソーシャルプロジェクトは明確な社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： ・ソーシャルボンド・フレームワーク ・ソーシャルボンド 1 年後定期レビュー資料 関係者へのインタビュー	DNV は、ソーシャルプロジェクトが、発行体によって客観的な社会課題であること、地域性の考慮、プロジェクト実行による受益者及び社会貢献(成果)が明確にされていることを確認した。 具体的には、ソーシャルプロジェクトが、厚生労働省、経済産業省、業界団体等の発行された資料からグローバルで認識されている社会課題であり、医薬品のグローバルなサプライチェーンの問題化が顕在化する中でバイオ医薬品を安定的に生産・供給することを通じて社会的な便益に対する成果を定量的に評価していることを確認した。また、ソーシャルプロジェクトの受益者として「バイオ医薬品の利用者」を特定していることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： ・ソーシャルボンド・フレームワーク ・ソーシャルボンド 1 年後定期レビュー資料 関係者へのインタビュー	ソーシャルボンドにより調達した資金はスケジュール-1 に掲げるソーシャルボンド プロジェクトリストの①、②のプロジェクトに 100%リファイナンスとして充当されたことを確認した。 富士フィルムホールディングスは、年次のレポートで対象となるプロジェクトおよびリファイナンス比率を報告する予定である。

## SBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>ソーシャルボンドの発行体はソーシャルファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトが適格なソーシャルプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>ソーシャルボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>社会面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> <li>プロジェクト選定記録</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>ソーシャルボンド・フレームワークにより、富士フィルムホールディングス経理部がコーポレートコミュニケーション部、ESG 推進部及び関連する事業部門と協議を行い、適格クライテリアを満たすプロジェクトを選定し、ソーシャルボンドの発行に際し、選定された適格プロジェクトについて、経理管掌役員が最終決定され、取締役会に報告されたことを確認した。</p> <p>また、ソーシャルプロジェクトの評価・選定時に富士フィルムグループのリスクマネジメント規程に基づきソーシャルプロジェクトに付随する環境・社会に対するネガティブな効果が抽出、評価され、アクションプランが策定及び実施されていることを確認した。</p>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>ソーシャルボンドプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、ボンド投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p> <p>富士フィルムホールディングスウェブサイト</p>	<p>富士フィルムホールディングスが展開している事業活動においてソーシャルボンド・フレームワーク並びに対外的に発信された情報等を含め包括的にレビューした結果、DNVはアセスメントを通じて富士フィルムホールディングスがサステナビリティ経営の実践及びSDGs、ESGリスクへの対応への取組みが事業活動からアウトプットされる成果が社会的な便益に資することを確認した。</p> <p>また、富士フィルムホールディングス関係者とのインタビューにおいて、DNVは富士フィルムホールディングスのバイオCDMO事業で実施された若しくは今後実施しようとするソーシャルプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効であることを確認した。</p>

### SBP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	ソーシャルボンドによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、ソーシャルプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>• ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> </ul> 関係者へのインタビュー	DNVは文書レビューとインタビューにより資金管理で要求される以下の内容を確認した。  調達資金の全ては富士フィルムホールディングスの口座に入金、グループ会社、現地法人を通じてスケジュール-1で示された当該プロジェクトへ充当された。また、ソーシャルボンドにより、調達された資金は、充当先及び金額を経理管理システムにて管理されていることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	ソーシャルボンドの実行期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>• ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> </ul> 関係者へのインタビュー	DNVは文書レビューとインタビューにより資金管理で要求される以下の内容を確認した。  ソーシャルボンドによる調達資金の追跡管理（入出金と残高確認）は月末に富士フィルムホールディングス経理部が実施し、経理管理システム及び社内規程で管理されていた。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるソーシャルプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>• ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> </ul> 関係者へのインタビュー	DNVは文書レビューとインタビューにより資金管理で要求される以下の内容を確認した。  調達資金は実際の充当予定時期までの間、現金にて管理された。

## SBP-4 レポートニング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はソーシャルボンドで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 守秘義務や競争上の配慮</li> <li>- 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境</li> <li>- 社会的な効果</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルボンド・フレームワーク</li> <li>• ソーシャルボンド 1年後定期レビュー資料</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>富士フイルムホールディングスはソーシャルボンドで要求される特定の項目について富士フイルムホールディングスのウェブサイトにて 2023 年 4 月に情報開示（資金充当レポートニング・インパクトレポートニング）を行う予定であることを確認した。</p> <p>情報開示には、機密性及び守秘義務の観点から以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルボンドの発行金額の適格事業への充当状況</li> <li>• 充当額の内、新規ファイナンスとリファイナンスの割合</li> <li>• 調達資金を充当した適格事業の概要</li> <li>• 適格事業への充当状況</li> <li>• バイオ CDMO 事業が有する生産能力（L）（2023 年 3 月時点）</li> </ul>